

## 水銀灯なみLED照明開発



水銀灯のように明るいLED照明。

黄色い円のひとつに350個の小さなLEDが入っている＝鳥取市役所

### ◆鳥取の会社 長寿命・高輝度実現

天井が高い体育館や工場の照明に使われる水銀灯と同じような明るさを持つLED(発光ダイオード)照明を、鳥取市の電子機器開発会社「ジーニア&アーレイ鳥取」が開発した。省エネや長寿命を売りに受注生産に入る。

同社は研究開発会社「ジーニア&アーレイ」(本社・東京)の子会社。昨年4月から鳥取市若葉台南7丁目でLED商品の開発を進めてきた。水銀灯代替LEDは、昨年末に完成した。

特徴は、350個のLEDを集積したチップを複数使った「面光源」。独自の技術でそれらをアルミの基盤に組み込み、故障の原因にもなる配線を無くした。

消費電力は180ワットで、電力消費量は水銀灯の35%以下。寿命が5万時間を超えたことで、メンテナンスの回数も減らせる。また、水銀灯はスイッチを入れてから点灯までに時間がかかるが、LEDはその心配もない。

畑宏芳社長は「鳥取発の技術と商品にこだわってきた。海外への輸出も視野に勝負ができる」と話している。(山崎聡)